



2学期が始まりました。 今年は何年以上に暑く厳しい夏でしたが、季節は秋へと移り変わり、学校でも勉強や諸活動を充実させる実りの学期を迎えます。そして、生徒会活動や部活動においては、先輩から後輩へとバトンが引き継がれていきます。

また、3年生は友達や仲間とともに中学校生活を最高に充実させるとき、2年生は学校の中心的な役割と責任を持ち始めるとき、1年生は中学生としての自覚を確かなものにするときです。生徒それぞれが、勉強や活動にしっかりと取り組み、さらに大きく成長してくれることを期待しています。



伏虎中トピックス

- 8月上旬に滋賀県で開催された近畿中学校総合体育大会に、本校バスケットボール部女子チームと水泳部3名が出場しました。ガンバってきたよ～(〇^)/
- 8月31日(土)の吹奏楽部定期演奏会に多数ご来場いただき、ありがとうございました。

防災の取組について

9月3日、避難訓練を行いました。大地震が発生し津波の危険があるという想定で、体育館に避難しました。ふざけたりする生徒もなく、整然と行動できたと思います。伏虎中学校は、東海・東南海・南海地震が同時発生した場合も津波被害の心配はないと予想されています。しかし、想定にとらわれてしまわないようにしようと話しました。

また、多くの方がドアや通路などの狭い場所へ殺到したとき、人が倒れて下敷きになってしまう、出口をふさいでしまうという危険があります。恐怖のあまり口々に叫ぶと集団でパニックになってしまうこともあります。だから、「お・は・し」を思い出し、おさない・はしらない・しゃべらないように行動しようと説明しました。

さて、学校は比較的安全な場所ですが、1年365日24時間のうち、生徒が学校にいる時間はその5分の1以下です。つまり、学校以外の場所にいる時の方が、はるかに多いのです。

例えば、県南部の海岸近くにいたとしたら、和歌山市と比べてはるかに早く高く津波が押し寄せてきます。時には2～3分の猶予しかないこともあると予想されていますから、とにかく高台へ一目散に

逃げる必要があります。

通学中だったら、就寝中だったら、建物内や地下街にいたら・・・など、様々な場合が考えられますから、「今もし地震が起こったら」と想像したり、非常口や避難経路を確認したりしておく、落ち着いて行動できると思います。

また、地震の場合、大きく3つの危険があることを知っておくと、行動の仕方が分かります。

1つ目は、倒壊物や落下物の危険です。机やテーブルの下に隠れる、布団やカバンを頭に当てる、塀や建物から離れるなどして身体を守ります。

2つ目は、火事です。揺れがおさまったら火の始末。それだけではなく、ガス、灯油、ガソリンなどが漏れているかもしれませんし、電線が切れてむき出しになっているかもしれません。目に見える炎だけが危ないのではないのです。

3つ目は、津波です。これまでも、津波被害が予想されていない場所で多くの方が亡くなっています。「ここは大丈夫」「これまでも大丈夫だった」「誰も逃げていない」との思いから、避難が遅れてしまうからです。このような人間の心理を理解し、「想定にとらわれない」「最善を尽くす」「率先して逃げる」ことが大切なのです。

